

日本軍政下のマラヤのエステートの村民(1) ジョホール州における終戦50年後のインタ ビューより

吉村, 真子 / ヨシムラ, マコ / YOSHIMURA, Mako

(出版者 / Publisher)

法政大学社会学部学会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

社会労働研究 / Society and labour

(巻 / Volume)

43

(号 / Number)

1-2

(開始ページ / Start Page)

203

(終了ページ / End Page)

165

(発行年 / Year)

1996-11

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00018830>

日本軍政下のマラヤのエステートの村民 (1)

- 12) この「ライス事件」というのは、トゥロック・スンガッ・エステートのマネージャーのライスが、コミュニスト・ゲリラに射殺された事件である。エステートが、エステートの労働者や近辺の村民を集めて映画を観せている時に、コミュニスト・ゲリラのグループが襲撃をかけてきて、ライスが撃たれて殺された。この事件は、トゥロック・スンガッの人々には語り継がれている事件であるが、今回のインタビューの中で、当時の話として幾人かが直接の目撃者として話している。次号以降に、さらに詳しい証言が出てくる。

Heah Joo Seang (連裕祥) は、裕福な華人実業家であり、彼の所有するエステートの総面積は、コタ・ティンギ地方のほかのエステートも合わせて2.7万ヘクタールにまでなったという。

- 5) 所有は、バウステッド・ホールディング社 (Boustead Holding Berhad) の子会社 (72.2% 株式保有) のクアラ・シディム・ラバー社 (The Kuala Sidim Rubber Co. Bhd.) が70% を所有し、経営はバウステッド・グループのバウステッド・エステート・エージェンシー (Boustead Estates Agency Sdn. Bhd.) が経営代理を行なっている。Boustead Estates Agency Sdn. Bhd. はプランテーションの経営代理を行っており、1991年6月30日現在、資本金 (支払済み) 10万リンギット、Boustead Holding Berhad の100% 所有である。1992年6月30日現在、Heah Joo Seang エステートの資本金 (支払済み) は918.4万リンギットとなっている (Boustead Holdings Berhad および The Kuala Sidim Rubber Company Berhad の内部資料による)。
- 6) この内の1名は、例外的に戦後生まれであるが、トゥロック・スンガツ周辺の華人虐殺の唯一の生存者の甥であるため、補足的に含めた。
- 7) また、インタビュー対象者が年長者で、筆者がずっと年下であることもあるが、マレーシア語で「anda (あなた)」と呼びかけて質問をするのは、堅い印象で、違和感があるので、実際には、「Pakcik (おじさん)」、「Makcik (おばさん)」と呼びかけることが多かった。しかし、日本語で、「おじさんは……ですか?」と表現すると、なれなれしい感じで、それも違和感が出てくるので、日本語では「あなた」にした。日本語で日本人にインタビューするならば、「〇〇さんは、……ですか?」とするところであろう。
- 8) インタビューの質問には、筆者のインタビューに付いていたエステートのスタッフや村人が発した問も含めている。なお、スタッフが、筆者に説明をするために発言している場合などは、「スタッフ: ……」として、表している。
- 9) マレー系の名前では、Wak Baying が本人の名前であるが、ここでは父親の名前で Hassan と答えているので、以下、本人の答は Hassan とする。
- 10) トゥロック・スンガツ・エステートで働き始めた年について、エリアス氏は、ここでは1932年と答えているが、そのあと、同じ質問に、1931年と答えている。
- 11) 前注を参照のこと。

日本軍政下のマラヤのエステートの村民 (1)

エリアス：子どもはみな，家族がいて，自分の家があります。しょっちゅう，私を訪ねて来ます。

問：お子さんが，このエステートで働きたい，と言ったときには，どう思いましたか？

エリアス：いいことですよ。

〈当時の友人たち〉

問：お友達の中で，日本軍に殺された中国人の人はいますか？

エリアス：いません。ここでは（殺された人は）いません。ほかの所のことは，私は知りません。

問：当時，このエステートで働いていた友達で，まだ生きている人はいますか？

エリアス：いません。たくさんの方が，もう亡くなっています。

問：ありがとうございました。

——インタビュー 2 終わり——

注

- 1) Special Thanks to the Interviewees and People in Telok Sengat, Kota Tinggi, Johore; Mr. Taufek Yahya, Boustead Estate Agency Sdn. Bhd.; Mr. Choo Im Fah, Manager, all the Staff and Workers, Telok Sengat Estate.
- 2) 三菱系の南亜公司ゴム園 (1万3000 エーカー余)，南洋ゴム株式会社ゴム園 (3,089 エーカー)，旭エステート (1,079 エーカー)。なお，同エステートの日本人所有の時期については，原不二夫 [1987] 186-187 頁，原不二夫 [1994] 176-177 頁にも触れられている。
- 3) 当時は，ジャングルの開拓や採液作業も酷熱下の重労働のために死者が絶えず，南亜公司創設者の1人井上雅二は，こうした人々の霊を慰めるためにゴム園内に「招魂碑」を建てている (原不二夫 [1987]，186 頁)。
- 4) *The Straits Times*, October 27 1951 (原不二夫 [1994]，176 頁)，

エリアス： いっしょに働いていました。

問　　： 給料は、暮らしに十分でしたか？

エリアス： ちょうど足りるぐらいです。

問　　： 貯金はできましたか？

エリアス： できませんでした。

〈子供の教育と仕事〉

問　　： 8人のお子さんは、みんな、学校に通いましたか？

エリアス： 私の子どもは、みな、学校に行きました。

問　　： みなさん、学校には何年通いましたか？

エリアス： 当時は、上の学校に行かせたくても、私にはお金がありませんでした。それで、みな、小学校卒業だけです。

問　　： お子さんは、現在、何の仕事をしていらっしゃいますか？

エリアス： いろいろです。マンドーになったのもいますし、トラックの運転手も、ほかの仕事もいます。

問　　： お子さんは、何人が男性で、何人が女性ですか？

エリアス： 5人が男で、3人が女です。

問　　： お子さんの中で、このエステートで働いているのは、何人いますか？

エリアス： 私の子どもは、シンガポールで働いている1人を除いて、みんな、このエステートで働いています。

問　　： それなら、7人のお子さんがここで働いているのですね。なぜ、エステートで働きたいのでしょうか？

エリアス： 昔は、今と違って、たくさんの仕事はなかったですから。昔は、たくさんの人が失業していました。

問　　： 現在は、このエステートでは誰と住んでいますか？

エリアス： 独りだけです。

問　　： お子さんはどこに住んでいるのですか？

日本軍政下のマラヤのエステートの村民 (1)

問 : エステートに戻ってきて、再開したマネージャーは誰ですか？

エリアス: 中国人でした。

問 : 白人ではなくて？

エリアス: 中国人ですよ。でも、彼はここには来たことがありませんでした。

問 : 当時、ライス氏という名前を、聞いたことがありましたか？

エリアス: ありました。マネージャーはライス氏でした。タウケが中国人だったのです。そのライス氏は、映画館で коммуニストに撃たれたのです。

問 : いつですか？

エリアス: 覚えていません。

問 : そのライス氏は、どれぐらいここで働いていたのですか？

エリアス: あまり長くはないです。

〈エステート再開後の仕事〉

問 : 戦前は、賃金はどうでしたか？

エリアス: 1日45センでした。でも、ライス氏がここを看ていたときには、もっと高かったです。

問 : 戦争後は、賃金はどうでしたか？

エリアス: エステートが再開されたときには、賃金は、1日2ドル80センでした。

問 : 1ヶ月に何日働いていましたか？

エリアス: 病気をしなければ、毎日、働きました。雨の日は働きません。

問 : 給料は、1ヶ月、だいたいいくらでしたか？

エリアス: 40ドルちょっとぐらいです。

問 : お連れ合いも働いていましたか？

問 : 誰が知らせてくれたのですか？

エリアス: 誰からかは知りませんが, ジョホールの方からです。

問 : その時の気持ちはどうでしたか？

エリアス: うれしかったですね。もう心配することもなかったですから。

〈エステートの再開〉

問 : 戦争が終わった後に, エステートでまた働き始めたのはいつですか？

エリアス: 覚えていません。

問 : どれぐらい待たなければなりませんでしたか？

エリアス: 戦争が終わって, 働き始めたのですよ。

問 : 仕事は何でしたか？

エリアス: またタッパーです。

問 : マンドーも同じ人ですか？

エリアス: そのマンドーは, 戦時中に亡くなりました。

問 : 誰と働いたのですか？

エリアス: ジョホールから来た, 新しいタウケ（「頭家」）とです。マレー人です。

問 : 戦争前に, ここではたくさんの方が働いていたわけですが, 戦争後に, 彼らは帰ってきたのですか？ それとも, 帰ってきませんでしたか？

エリアス: 帰ってきませんでした。逃げたり, 避難したり, ジョホール・バルやシンガポールに行った人などは, 戻ってきませんでした。避難していなかった人間が, ここで働き続けたのです。

〈「ライス事件」¹²⁾について〉

ね?

エリアス: 軍隊に行きたい者は (軍隊で) 働きましたし、したくない者は働きませんよ。

問 : 日本軍は、あちらこちらで中国人を捜し出して、殺していましたが、それについて、聞いていましたか?

エリアス: それについては、たくさん聞いています。

問 : どんなふうに、誰から聞きましたか?

エリアス: 自然と聞きましたよ。中国人たちは森に入って、コミunistになりました。それで、日本軍は彼らを捕まえるためにスパイを使ったのです。そして、捕まえたら、そのまま殺すのではないですが、でも、いろいろと質問されても、話さなかったり、うまくいかないとだめですね。どんな人でも、悪くなければ、殺されることはないです。

問 : 私は、すでに幾人かの中国人の村人にインタビューをしましたが、彼らはカンボン・ブアイ (ブアイ村) では中国人が日本軍に殺された、と言っていましたか、どうですか?

エリアス: みんなじゃありません。良い人なら、日本 (軍) はひどいことはしません。口ですよ。抗日的とか、よくないことをしゃべったりしたら、マレー人だってよくないことをしゃべれば、日本 (軍) は捕まえますよ。

〈終戦〉

問 : 戦争が終わったのは、どう知りましたか?

エリアス: 私が終戦を知ったのは、ジョホールからの電話があったときです。

問 : 当時、ここに電話があったのですか?

エリアス: はい、電話ではなくて、電報で、日本が降伏したと知らせてきたのです。

エリアス：多くの方が森に行きました。中国人と一緒に森に逃げて行ったマレー人もいました。

問：でも、その人がマレー人かインド人だったら、恐がる必要もないのではないですか？

エリアス：恐がってました。でも、私たちがどこかに逃げたかったですよ。

問：日本軍が来る前に、すでに金は貯めていましたか？

エリアス：その時は、お金はなかったです。

問：食べ物はどうやって買ったのですか？ 芋を植えたりしたのですか？

エリアス：芋を植えただけです。さつま芋やヤム芋やいろいろと植えました。当時は大変でした。

問：当時は、もう結婚していましたか？

エリアス：はい、結婚していました。

問：いつ結婚したのですか？

エリアス：1943年です。

問：日本軍政期ですか？ 誰とですか？

エリアス：同じ故郷の人間とです。でも、今はもうおりません。

問：お子さんは、何人ですか？

エリアス：たくさんいますよ。8人です。

問：日本軍政期には、お子さんは何人いましたか？

エリアス：日本軍政期には、1人だけです。

問：お連れ合いは前はどこで働いていましたか？

エリアス：私と一緒に、ゴムのタッピングをしていました。

問：エステートが閉鎖されて、仕事がなかったときには、日本軍で働きたいと思いましたが？

エリアス：いいえ、思いませんでした。

問：でも、たくさんの方のマレー人が日本軍に働きに行きましたよ

エリアス：私の日本人のボスです。

問　　：彼はどう話したのですか？

エリアス：彼は、仕事はもうないと言いました。私が「なぜですか」と尋ねましたら、彼が、戦争が始まると言いましたので、まもなく戦争だと知ったのです。

問　　：その時は、タッピングはしていましたか？

エリアス：できました。

問　　：誰がゴムを買ったのですか？

エリアス：それは私は知りません。

問　　：その時は、エステート内に住み続けていたのですか？

エリアス：私のエステートのボスが手紙を書いてくれていましたし、逃げないように、とのことでしたので、逃げませんでした。日本（軍）がその手紙を読んだので、ひどいことはされませんでした。

問　　：でも、日本軍政期、中国人はたぶん日本軍が来ることを心配していたのではないですか？

エリアス：そうです。中国人はたしかに日本軍のことを恐がっていました。

問　　：マレー人として、あなた自身は、どう感じていましたか？

エリアス：マレー人は心配していませんでした。ふつうでした。悪いことはしていませんから。でも、悪いことをすると、（マレー人でも）日本軍が首を切りました。ふざけてはられません。中国人はたくさん、首をはねられて殺されました。

問　　：それでは、当時、その人が中国人だったら、森に逃げて行きましたか？

エリアス：ええ、たくさんの方がコミュニストになりました。

問　　：でも、そうした中国人は、森に逃げ込まなければならなかったふつうの村民だったのではないですか？

家から追い払わないための手紙だったのです。その日本人は、ここの家から逃げて自分の家を建てたりしないように、と言ったのです。家が壊れないかぎり、逃げないように、と言ったのです。「終われば、取られた私たちの財産はどうなるのか」と聞きましたら、「そのために、手紙をあげるのだから」と日本人が言いました。彼は、私たちみんなに手紙をくれて、心配しないように言ったのです。でも、大変だったのは、その手紙を読んだ日本軍がマレー語を話せないことでした。手紙を（日本兵に）見せて、その人が「ドーズ」と言いました。でも、彼がしゃべることは、私にはわかりませんでした。

問 : 手紙を書いてくれたのは、誰ですか？

エリアス: 私のボスで「ハヤシダさん」です。

問 : その手紙は、何について書かれていたのですか？

エリアス: ローマ字ではなくて、日本語で書かれていたので、私は知りません。

問 : 日本軍がシンガポールやマレーシアに来たときに、ここにいた日本人はどこに行ったのですか？

エリアス: みんな、帰っていったのです。シンガポールの方で戦争が始まる前に、日本人はすでに帰国のために出発していました。

問 : 彼らが帰るとき、彼らは何か話していききましたか？ それとも、ただ帰っていったのですか？

エリアス: 帰って行きました。

問 : 彼らは、ここで働いていた人にお金を渡していききましたか？ それとも帰っていただけですか？

エリアス: ええ。彼らは、ここにそのまま静かに住んでいるように伝えただけです。

問 : エステートが閉鎖されることは、誰が知らせたのですか？

日本軍政下のマラヤのエステートの村民 (1)

エリアス： オフィスで働いていたのは、2人だけです。

問　　： トゥロック・スンガッに、日本人は何人いましたか？

エリアス： 覚えていませんが、たくさんいました。

問　　： 10人以下ですか？ それとも、50人ぐらいですか？

エリアス： 30人以下です。

問　　： それはたくさんいますね。

エリアス： そうです。1ヶ所に2人の日本人がいました。1人がマネージャーで、1人がクラークです。他の場所についてはわかりませんが、私の所のボスには妻も子供もいました。

〈戦争の始まり〉

問　　： 戦争の始まりをどうやって知りましたか？

エリアス： 日本の飛行機をこの上空に見た時に知りました。

問　　： ここで見る事ができたのですか？

エリアス： 見られました。たくさん見ました。その時、シンガポールを通っていました。

問　　： その時には、どう感じましたか？ 心配しましたか？

エリアス： その時には、心配しました。

問　　： 暮らしの方はどうでしたか？

エリアス： 食べ物なくて、大変でした。米も長い間、ありませんでした。

〈戦争中のエステート〉

問　　： エステートもすぐ閉鎖されたのですか？ どうでしたか？

エリアス： 閉鎖されて、仕事も全然ありませんでした。日本人はみんな、すでに帰ってしまい、いたのは（日本の）軍隊だけでした。でも、その（エステートの）日本人は、私たち労働者全員に手紙を与えてくれました。やってきた日本軍が私たちを

インドネシア人3人だと思います。

問 : エステートで働いていた人は、何人がマレー人で、何人が中国人でしたか？

エリアス: それは、私は知りません。

問 : あなたの所では、マンドー1人当たり、60人の労働者がいたのですよね。その労働者は、どこから来たのですか？

エリアス: 私の所では、私と同じ民族が30人いました。

問 : 誰が多かったのですか？

エリアス: マレー人です。

問 : 当時のエステートで、植えられていた樹は何でしたか？

エリアス: ゴムの樹だけで、他の樹はなかったです。

〈エステートの日本人〉

問 : 当時のエステートのマネージャーは、誰でしたか？

エリアス: 日本人です。

問 : その人の名前を知っていますか？

エリアス: マネージャーは、私は名前を知りません。でも、私の所のボスなら、間違いなければ、名前は「ハヤシダさん」です。

問 : その人は、若い人でしたか？ それとも、年配の人でしたか？

エリアス: 年配の人ですが、そんなに歳を取っているわけでもないです。

問 : その日本人の仕事は何でしたか？

エリアス: 従業員の面倒を看ていました。給料の計算をすべてするので。昔は、ここでクラークとして働いている人もみんな、日本人でした。

問 : クラークとして働いているインド人もいましたか？

エリアス: いました。

問 : 何人ですか？

日本軍政下のマラヤのエステートの村民 (1)

ね。

問 : 食べ物はどうでしたか? (エステートから) もらえましたか?

エリアス: 自分で買っていました。

問 : 住宅は, もらえましたか?

エリアス: はい, もらっていました。

問 : 1軒の家に, 何人が住んでいましたか?

エリアス: 独身者でしたら, 1軒の家に4人で住んでいました。妻帯者の場合は, 1軒, もらっていました。

〈エステートの労働者〉

問 : 当時, エステートで働いていた人は, 何人いましたか?

エリアス: たくさんいました。マンドー1人当たり, 60人の労働者がいました。

問 : マンドーの名前は, 何と言いましたか?

エリアス: 覚えていません。

問 : エステート内で働いていたのは, 全員で何人いましたか?

エリアス: たくさんです。だいたい, マンドー1人当たり, 60人で, 1ヶ所に1人のマンドーです。

問 : マンドーは, 当時, 何人いましたか?

エリアス: 6人です。

問 : そのマンドー達は, どの人でしたか? マレー人ですか?

エリアス: いろいろです。マレー人もいましたし, 中国人もいましたし, ボヤンの人だっていました。

問 : インド人もいましたか?

エリアス: いました。

問 : 何人がマレー人で, 何人が中国人でしたか?

エリアス: もう覚えていません。マレー人, 中国人, インド人, それに

か？

エリアス：ここから遠くに住んでいました。場所の名前は、プラウ・ウンパット（第4の島）です。

問：エステートの名前は？

エリアス：（今と）同じです。トゥロック・スンガッ・エステートです。

問：最初にエステートで働くことを考えたとき、どう感じましたか？ 給料とかは？

エリアス：ここですでに働いていた友達が、私に教えてくれました。

問：お姉さんはどう思っていましたか？

エリアス：私の姉は、このエステートに来たことはありません。給料をもらったときに、私の方がシンガポールに行っていました。

問：お姉さんは、このエステートに行かないで、あちら（シンガポール）にいれば、とは言わなかったのですか？

エリアス：いいえ。

〈エステートでの暮らし〉

問：1日の仕事は、どんなでしたか？ 仕事を始めるのは何時で、終わるのは何時でしたか？

エリアス：仕事を始めるのは、朝の6時、6時半で、朝の11時にはもう帰られました。

問：賃金の方は、どうでしたか？

エリアス：賃金は、1日45センです。当時は、1センで物が買えましたよ。

問：給料は、日々の暮らしには十分でしたか？

エリアス：十分でした。

問：貯金もできましたか？

エリアス：貯金はなかったです。貯めるのは、ちょっと難しかったです

日本軍政下のマラヤのエステートの村民 (1)

問 : トゥロック・スングッ (エステート) で働き始めたのは、いつですか?

エリアス: 1931年¹¹⁾です。

問 : ここ (トゥロック・スングッ) での仕事には、どうやって応募しましたか?

エリアス: その頃は、仕事を求めるのは難しくもなかったです。応募するのはたいへんじゃなかったです。仕事に来たい人は働けましたが、ゴムのタッピングです。

問 : ここに来る前に、ここで働いている人はいましたか?

エリアス: たくさんいました。いろいろです。ジャワの人間もいれば、マレー人もいたし、中国人もいました。

問 : ここに入る前に、ここで働いている友達にはいましたか?

エリアス: いました。

〈エステートでの仕事〉

問 : エステートで仕事を始めたときのマンドー (人足頭) は、どこの人でしたか?

エリアス: (インドネシアの) マドゥーラ人でした。

問 : どこで、どのようにその人に会いましたか?

エリアス: シンガポールで出会いました。当時、彼はスンガイ・パパンの請負業者 (コントラクター) で、エステートで働く人間を捜しにシンガポールに来ていたのです。

問 : それ以前に、エステートで働いたことはありましたか?

エリアス: いいえ、ありません。

問 : その時に、エステートでの仕事がどんなか、もう知っていましたか? どうやって知りましたか?

エリアス: 働き始めてから、(仕事については) 知りました。

問 : エステートで働いているときには、どこに住んでいました

問 : ここに来る前に、インドネシアでは、学校に行ったことがありましたか？

エリアス：ありません。

問 : ご両親は、どうですか？

エリアス：昔の時代は、私の国ではまだ学校はありませんでした。ジャカルタの方にはありましたけれども。

問 : ご両親は、字が読めましたか？

エリアス：学校には行ったことがないですから、ほんの少しだけです。

問 : あなた自身は、新聞などは読めますか？

エリアス：読めますが、時間がかかります。

問 : お姉さんは、どうですか？

エリアス：彼女は学校に行っていないから、読めません。

〈マレーシアへの移住〉

問 : あなたは、どうしてマレーシアにやってきて、なぜコタ・ティンギにやってきたのですか？

エリアス：仕事を捜しに来たのです。最初にシンガポールに来たときは、それでも仕事は得られませんでした。その時、このエステートの日本人がクーリー（労働者）をたくさん欲しがっていると聞いて、それでここに友達と来たのです。

問 : 仕事を始めたときには、仕事は何でしたか？

エリアス：ゴムのタッピングです。

問 : なぜエステートで働いたのですか？

エリアス：その時は仕事がありませんでしたから。工場での仕事がたくさんある現在のようではないですから。昔は、ゴムのタッピングだけです。

〈エステートへの就職〉

日本軍政下のマラヤのエステートの村民 (1)

エリアス： エリアスです。

問　　： 書けますか？

エリアス： 私は、学校に行ったことがありませんから。昔の人間で、学校に行った人はいませんよ。

問　　： お歳は、いくつですか？

エリアス： もう 81 歳になります。

問　　： マレーシアに日本軍が来たときは、あなたはおいくつでしたか？

エリアス： 30 歳以下です。

問　　： いつ、ここにいらっしゃいましたか？

エリアス： 私は、1932 年¹⁰⁾にここに来ました。

問　　： マレーシアには、誰と来たのですか？

エリアス： 私ひとりだけです。当時は、まだ独身でしたから。

問　　： その時、ご両親はどうでしたか？

エリアス： その頃、両親はもういませんでした。すでに亡くなっていました。私の姉は、もうこちら（マレーシア）に来ていました。

問　　： お姉さんは、どちらで働いていますか？

エリアス： 現在は、もう働いていません。

問　　： マレーシアに来たときには、お姉さんはどちらにいたんですか？

エリアス： シンガポールです。

問　　： 何の仕事でしたか？

エリアス： 車の仕事です。

問　　： お姉さんは、もう結婚していましたか？

エリアス： はい。現在は子供もいます。

〈学校教育の有無〉

ハッサン：ここからよそには行きたくありません。この村（エステートの近所）に自分の家があります。

問：お子さんは、学校に何年間、行きましたか？

ハッサン：みな、学校には行きました。

問：何年間ですか？

ハッサン：何年かは知りません。いつ終えたんだか、知りません。

問：どこの学校に行ったんですか？

ハッサン：このトゥロック・スンガッの学校です。

問：その学校ですか？

ハッサン：私は字が読めないのです、知りません。

問：ありがとうございました。

ハッサン：どういたしまして。

——インタビュー1 終わり——

《インタビュー2》

Elias bin Atmoh 氏。81 歳。1914 年にインドネシアに生まれ、マ



レーシアに渡った後、1931 年か 32 年にトゥロック・スンガッ・エステートでゴムのタッパーとして働き始めた。現在、仕事は引退して、トゥロック・スンガッのブラディン・バル村 (Kg. Belading Baru) に住んでいる。(1995 年 8 月 7 日、エリアス氏の自宅でインタビュー)

〈本人と家族について〉

Elias bin Atmoh

問：はじめに、お名前は何ですか？

ハッサン：私の子どもは、3人が男で、3人が女です。

問：どこかで働くとしたら、エステートで働こうとしないのは、仕事あまり良くないからですか？ どうでしょうね？

ハッサン：ここでの仕事はいいですよ。でも、子どもは興味ないようですね。ゴムのタッピングなら、仕事もきつくないので、55歳までだって働けますよ。

問：お子さんがエステートで働きたくないのに対しては、どう思いますか？

ハッサン：働く、働かないは彼ら次第ですから。それに、エステートにしても、もう労働者はいらないでしょう。仕事もあまりないですからね。もし（エステートに）入りたい人がいても、（エステート側は、労働力は）もう十分にあると言いますし。

問：もし、お子さんがエステートで働きたいと言ったら、どう思いますか？

ハッサン：いまの若い人は、エステートで働きたがらないと思います。彼らは工場で働く方を好みますから。除草剤や肥料の散布といったエステートでの仕事なんて、彼らはやりたがりませんよ。工場での仕事の方が、いいんじゃないですか？

問：どんなふうに、いいんですか？

ハッサン：きれいな服を着て、町の近くで働いて。若い人たちは、エステートでは働きたがりません。私みたいな年寄りが、ここで死ぬまでだって働くんですよ。

問：いま、家ではだれと住んでいますか？

ハッサン：妻とです。

問：もう60歳以上におなりですが、まだここで働きたいですか？

ハッサン：使ってくれるなら、ここでずっと働きます。使ってくれないなら、村に住みますよ。

問：このエステートから出るとしたら、どこに住みたいですか？

ハッサン: いいですよ。仕事は好きですね。

問 : いま, 結婚していますよね?

ハッサン: ええ。もう孫もおります。

問 : お子さんは, 何人ですか?

ハッサン: 6人だけです。

問 : いちばん上のお子さんはいくつで, 末のお子さんはいくつですか?

ハッサン: いちばん上が45歳だと思いますが, 末(の子の歳)は覚えていません。

問 : お子さんは, どこで働いていますか?

ハッサン: いろいろです。

問 : たとえば?

ハッサン: FELDAに1人, スンガイ・マスの近所に1人, それから他の場所です。

問 : 何の仕事ですか?

ハッサン: 農業です。自営ですね。

問 : ほかに?

ハッサン: 1人はスンガイ・ティラム, 1人はジョホール・バル, 2人はルガットの近くです。

問 : みなさん, 結婚していますか?

ハッサン: ええ, しています。

問 : お子さんの中で, このエステートで働いている方もいますか?

ハッサン: 1人もいません。

問 : エステートでは働きたくないのですか?

ハッサン: 働きませんね。結婚したら, それぞれの連れ合いにそれぞれ付いて, 別々の場所に行きました。

問 : みなさん, 女のお子さんばかりですか?

日本軍政下のマラヤのエステートの村民 (1)

ハッサン： 当時は、軍がまだ権力を掌握している時期でしたから。

問： ああ、それはたぶん「非常事態」のときですね。

ハッサン： そう、「非常事態」です。白人がこのエステートを再開した時には、私たちは新しい政府との契約で働きました。

問： とすると、軍がこのエステートを再開したということですか？

ハッサン： そうです。

問： ここで再び働き始めて、賃金はどうでしたか？

ハッサン： 私たちは、契約雇い（出来高制）でした。ゴム1パウンドで8センです。

問： 1日で、およそいくらぐらい稼げましたか？

ハッサン： 1日2ドルか、2ドル50センです。

問： 仕事は何時に始めて、何時に終わりましたか？

ハッサン： 朝の6時に仕事を始めて、昼の12時前には終わっていました。

問： その頃は、ここで働いている人は、だいたい何人ぐらいでしたか？

ハッサン： 私のやっていた地区内では、46人だけです。1人はマンドーです。

〈現在の暮らしと子どもたち〉

問： いま、どこにお住まいですか？

ハッサン： ブラディン・バル村に住んでいます。

問： 現在の賃金はいくらですか？

ハッサン： 1日8ドル50センです。

問： 1ヶ月に何日、働きますか？

ハッサン： だいたい26日です。

問： ここでの仕事はどうですか？

ハッサン：それは知りません。彼らがどうしてたかは私にはわかりませんよ。

問　　：彼らはどこから持ってきていたのでしょうか？

ハッサン：どこからかは知りません。でも、ここまでは大きなジャンクで来ていました。

〈エステートの再開〉

問　　：コミュニストが米を配るのをやめた後、生活はどうでしたか？ エステートでの仕事は始まりましたか？

ハッサン：エステートが再開されたのは、戦争が終わって6ヶ月しないぐらいでした。

問　　：だれがエステートを再開したのですか？

ハッサン：白人です。

問　　：その白人はどこから来たのですか？ 英国人ですか？

ハッサン：どこから来たのかは知りません。でも、このエステートを再開した人の名前は、ライス氏です。彼は、1ポンド8センで契約しました。そのゴムの樹は、ゴムを掛け合わせた種類です。戦争前に、日本人がゴムを掛け合わせたのを植えて、戦後には白人がその掛け合わせたゴム樹のエステートを開いたのですよ。

問　　：白人はどれぐらい来たのですか？

ハッサン：男の人だけですよ。

問　　：彼らはどれぐらい、ここにいましたか？

ハッサン：3年もいなかったと思いますよ。その後、ここを買った中国人のリュウ・セン（Lew Seng: Joo Seang の間違いか？）がエステートを所有して、現在に至ってますから。

問　　：あなた自身は、ここでの仕事をどうやって再開したのですか？

日本軍政下のマラヤのエステートの村民 (1)

もありました。 коммуニストが物をくれたんです。

問 : 誰が? 中国人がですか?

ハッサン: コミュニストがです。

問 : 彼らは, どこからその物資を調達していたのですか?

ハッサン: それは知りません。日本が降伏して10日もしない内に, 中国人が, 大きなジャンク (平底帆船) に米をたくさん載せてやってきたんです。

問 : 物資は, たとえばどんな物ですか?

ハッサン: 米やタバコや砂糖です。

問 : そうした物資はどこから来ているのですか?

ハッサン: それはわかりません。でも, そうした物がトゥロック・スングアまで届くと, 米を取りに来るようにみんなを呼ぶんです。夫婦だったら, 1ガントンの米をくれました。これは全部, コミュニストがくれたんです。その時はもう коммуニストが統治していました。

問 : なぜ彼らは米をくれたのですか?

ハッサン: そうですね。長い間, 食べ物もなかったし, それで当時のエステートにいた人はみんな, 彼ら (коммуニスト) に参加しました。その時は, コミュニストがこのマラヤをすでに統治していました。それで, 彼らは米や砂糖を配ったのです。3ヶ月の間, 1週間に1回でした。

問 : コミュニストは, この村の人にだけ, 米をくれたのですか?

ハッサン: みんなにです。

問 : その коммуニストの人には, この村の出身の人はいましたか?

ハッサン: それはわかりません。でも, 彼らには人々の支持がありましたよ。あんなふうに米をくれる人がどこにいますか。

問 : その後, なぜ彼らは米を配るのをやめたのですか?

本軍に強制されていきました。たぶん、タンジョン・ブアイからバンチャーにかけて、7人を軍に入れました。

〈戦争の終わり〉

問 : 戦争が終わったのは、いつ知りましたか？ だれが、戦争が終わったと知らせてきましたか？

ハッサン: 知らせがありました。当時、5番区域に、 коммуニストが来たんです。彼らは、戦争が終わったことを話していました。日本がすでに降伏したと。そのニュースは、中国人が、マレー人に知らせてくれました。いつかは覚えていませんが。

問 : それでは、 коммуニストから知ったのですね？

ハッサン: そうです。日本が降伏してから、もう2、3日たっていました。彼らは、アメリカが日本の国に爆弾を落とすと話していました。信じようが信じまいと、その内にわかる、と言われました。

問 : その時には、どう感じましたか？

ハッサン: うれしかったですね。日本（軍）はもう他の人の首を切ったりしない。戦争時は、警戒しないと知らない敵がふたつあったんです。ひとつは коммуニストで、もうひとつは日本軍です。私たちは普通の住民ですから、そうしたふたつの敵には注意していました。 коммуニストに何か悪いことをすると、 коммуニストがわれわれを殺します。日本軍も同じです。このふたつには気をつけました。

〈終戦直後〉

問 : 戦争が終わったと聞いたときには、生活はどう変わりましたか？

ハッサン: 戦争が終わって、嬉しかったですよ。その時には、もう物資

日本軍政下のマラヤのエステートの村民 (1)

をつくってました。

問 : その人たちはトゥロック・スングァの出身ですか? それとも、どこの出身ですか?

ハッサン: それは、わかりません。

問 : トゥロック・スングァ・エステートの中はどうでしたか? コミュニストの人はいなかったのですか?

ハッサン: エステートの中にはいませんでした。中国人は普通に働いていただけです。

問 : トゥロック・スングァに日本軍が来たときには中国人たちはどうしていたのですか?

ハッサン: どこにも逃げずに、静かにただ暮らしていました。日本(軍)がどこの人間なのかと聞いた時には、エステートの者だというだけです。でも、もし逃げたりしたら、日本(軍)が撃ってきます。逃げなきゃ、日本(軍)もいじめませんよ。

問 : それなら、あなたの友達の中に、日本軍に殺された人はいませんか?

ハッサン: いません。エステートで働いていた人にはいません。

〈日本軍への志願や徴用〉

問 : あなたの友達の中には、日本軍で働いていた人はいましたか?

ハッサン: たくさんいました。当時は、どの地域も3人、日本軍に出していました。

問 : 日本軍での仕事があったのなら、あなた自身はなぜ軍に志願しなかったのですか?

ハッサン: 当時、村の人は好きじゃなかったんです。日本軍に入ることについては、かなり心配していました。でもマンドー(人足頭)の1人が、村から3人の人間を軍の兵隊に送るように日

問 : 中国人の場合、日本軍がこの地域に共産軍を捜しに来たりするのを恐れて、森に入ったりしなければなりませんでしたがか？

ハッサン: 当時、ここで働いていた中国人は、森に入ったりはしませんでした。

問 : そうすると、マレー人はエステート内に暮らし続けていたわけですが、中国人の場合はどうでしたか？

ハッサン: 中国人もここに暮らしていました。食べる物を植えたり、それだけです。

問 : でも、日本軍が коммуニストを捜しにここに来た時には、逃げたりしたのでは？

ハッサン: (коммуニストは) 日本軍が来る、と情報を得たら、もういませんよ。日本軍がここに来る前に知らせてくれるスパイがいるんです。日本軍がここに来たときに、(коммуニストは) みんな、もう逃げていましたよ。日本軍がいなくなったら、みんな、ここに戻ってきました。

問 : あなたの友達に中国人もいたでしょうが、その人たちの暮らしはどうでしたか？ 日本軍に殺された人もいましたか？

ハッサン: (殺された人は) たくさんいました。いちばん多かったのは、ナンヨーのそばですね。あそこは、本当に коммуニストがいた、と日本軍が言っていました。

問 : でも、本当に коммуニストだったのですか？ 普通の村民だったのではないですか？

ハッサン: いいえ。

問 : その人たちは、どこから来たのですか？

ハッサン: 前は普通に働いていました。日本軍がここに来たときに、団体に入って、 коммуニストになったんですよ。彼らはナンヨーの近くに住んでいて、ひとつのカンポン・バル (新村)

日本軍政下のマラヤのエステートの村民 (1)

問 : お金の方はどうですか? お金は、貯めていたのでしょうか?

ハッサン: 貯金はなかったですね。

問 : お金は、どこの通貨でしたか?

ハッサン: 英国の通貨です。

問 : バナナ紙幣 (軍票) じゃなくて?

ハッサン: 戦争前は、英国の通貨です。戦時中になってから、日本の通貨 (軍票) です。

問 : 50 センだったら、日本の通貨でいくらになりましたか?

ハッサン: わかりません。戦争が始まったら、全部、日本のお金に変わったんです。

問 : 日本のお金は、紙の紙幣でしょう?

ハッサン: そうです。

問 : 当時の給料はどうなっていたのですか?

ハッサン: 契約 (コントラクト: 請負制) ですね。やり方が変わったんです。

問 : でも、日本人がこのエステートを所有していた時には、「コン」方式だったと言っていましたよね。戦争が始まって、なぜ (請負制に) 契約方式を変えたのですか?

ハッサン: 日本軍が進入してきて、契約 (請負制) 方式になりました。賃金は、1日3ドル50センでした。

問 : 仕事は、何でしたか?

ハッサン: 同じゴムのタッピングです。1日で12パウンド、採れば、4タヒル、くれました。

〈エステートの中国人労働者〉

問 : 日本軍政になってから、ここでの暮らしはどうでしたか?

ハッサン: ふつうですけど、大変でしたね。

問 : 日本軍が来て、来る前に比べて、生活が変わりましたか？

ハッサン: エステートの者は逃げませんでした。私たちは、静かに暮らしていただけです。

問 : エステートの方は、どうでしたか？ ずっとここで働いていましたか？ それとも、それは出来ませんでしたか？ エステートは閉鎖されましたか？ それともどんなでしたか？

ハッサン: 戦争になったら、仕事はありませんでした。3ヶ月弱、仕事がなかったです。日本軍が来ると、仕事に戻るよう呼びにきました。

問 : 当時、ここで働いていた日本人は、日本に帰国する前に、どんなふう話していききましたか？

ハッサン: いなくなっていました。なにも言わずに、ただ帰国していったのです。いたのは軍だけです。

問 : 生活は、どうでしたか？ エステート内に、ずっといられたのですか？

ハッサン: いられました。

問 : でも、暮らしぶりはどうでしたか？ 食べ物やお金は、十分にありましたか？

ハッサン: 当時は、食べ物は十分にはなかったもので、自分たちで何とかやっていました。タピオカやさつまいもといった食べられるものを植えました。

問 : エステートでは、仕事はなかったのですか？

ハッサン: エステートでの仕事はもうなくなっていました。仕事は自分でやりましたが、でも、エステートの中で暮らしていました。

問 : ゴムの樹を、タッピングしたりはできなかったのですか？

ハッサン: 政府もまだあったし、タッピングはできませんよ。そもそも、誰が買いますか。

日本軍政下のマラヤのエステートの村民 (1)

ハッサン：このエステートは、全部ゴムでした。

問：戦争当時には、日本軍もここに来ましたか？

ハッサン：来ました。

問：ここにいた日本人は、どんなでしたか？

ハッサン：戦争が始まってしまったときには、彼らは帰国していきま
した。

問：戦争が始まったのは、どうやって知りましたか？

ハッサン：爆弾が落ちてきたので。

問：爆弾が落ちてきた時に、どうして戦争が始まったとわかった
のですか？

ハッサン：エステートの人が、戦争が始まった、と話していましたの
で。

問：ラジオからではなくて？

ハッサン：当時は、ラジオはなかったです。人がしゃべっているのを聞
いたのです。

問：爆撃はどこであったのですか？

ハッサン：シンガポールです。朝の4時でした。

問：その時には、恐かったですか？

ハッサン：その時は、わかっていませんでした。

問：当時、日本軍は最初にクランタンからマレーシアに入ってきた
のは、知っていましたか？

ハッサン：知りませんでした。

問：シンガポールに日本が爆撃してから、初めて知ったのです
か？

ハッサン：そうです。

スタッフ：日本がシンガポールに爆撃したのは、戦争の末期ですね。

〈日本軍政下のエステート〉

いました。

問 : いちばん多かったのは、何系でしたか？

ハッサン: 全体でいちばん多かったのは、マレー人です。それから、中国人、インド人ですね。

問 : エステート内では、マレー人は半分以上なのか、それともどれぐらいの比率でしたか？

ハッサン: マレー人は、75%以内だと思います。中国人が15%以内で、インド人は少なかったでしょう。

問 : 彼らは、どこの出身でしたか？

ハッサン: 当時は、彼らの出身国から来ていました。ここ（マラヤ）の生まれはいなかったですね。マレー人にしても、（インドネシアの）スブラン（Seberang）からたくさん来ていましたから。

問 : 中国人は中国から、インド人はインドから、ですね。

ハッサン: その通りです。

問 : インドネシアから来たマレー人の場合、どこの地方から来たのでしょうか？

ハッサン: それはわかりません。でも、いちばん多かったのは、プラウ・ボヤンからです。

問 : 当時は、中国人もエステートで働いていましたか？

ハッサン: いました。

問 : 何をして働いていたのですか？

ハッサン: ゴムのタッパーです。

〈戦争の始まり〉

問 : 当時は、エステートの面積はどれぐらいでしたか？

ハッサン: どれぐらいの大きさかはわかりません。

問 : 何を植えていましたか？ ゴムだけですか？

日本軍政下のマラヤのエステートの村民 (1)

さん採れるか、なんて考えたりしません。

問 : (労働者が) 仕事を熱心にしない場合や、もしくはちゃんとやらない場合は、どうだったのですか?

ハッサン: (決まった分の) タッピングが終わらない場合は、賃金が減らされます。記録帳に赤でマークされるのです。

問 : 仕事が終わらないとしたら、賃金を減らされるわけですね?

ハッサン: そうです。減給です。

問 : 注意されたり、通告されたりしないで、減給されるのですか?

ハッサン: 通告なんてないです。給料を減らすんです。当時の日本人は、とても細かかった(仕事にうるさかった)です。

問 : どんなふうに、細かかったのですか?

ハッサン: 大変でした。1本の樹があって、(樹液を受ける) タッピング・カップが落ちたら、もうそれで、給料から5センの減給です。(そうすると) 50センしか残りません。

〈エステートの労働者について〉

問 : 当時、エステートで働いていたのは、何人ですか?

ハッサン: トゥロック・スンガッ全体では、わかりません。でも、500人以下です。当時、1地域に日本人が1人とクラークが1人、いました。

問 : そのクラークは、どこの人ですか? その人も日本人ですか?

ハッサン: マネージャーは日本人で、クラークはインド人です。クラークは、インド人が多かったですね。

問 : ここで働いている人の内、マレー人は何人で、中国人は何人、インド人は何人でしたか?

ハッサン: そういったことは、わかりません。でも、3民族はもちろん

ハッサン：ゴムのタッピングです。

問：仕事は自分で選んだのですか？ それとも家族が勧めたのですか？

ハッサン：自分です。ここで生まれましたし、歳も15歳で十分に働きましたから。

問：毎日の仕事は、何時に始めて、何時に終わりましたか？

ハッサン：朝6時に仕事を始めて、11時に終わります。

問：賃金は、大体いくらでしたか？

ハッサン：男性で、1日55センです。

問：女性では？

ハッサン：45センです。

問：男性と女性で賃金が違うのはなぜ？ 今では仕事は同じでしょう？

ハッサン：男性の仕事は、女性より、少しはきついです。

問：日本人が、男性の仕事の方が少しきついと言ったのですか？

ハッサン：そうです。そんなふうに言っていました。

問：女性だって、男性と同じに働くでしょう？

ハッサン：同じですね。

問：それでも、日本人は、男性（の労働者）には55セン、女性には45セン、としていたのですか？

ハッサン：そうです。

問：なぜ女性の給料は少ないのですか？

ハッサン：その頃は、まさにそんなやり方なんですよ。どこでも同じです。（賃金に）高いも低いもなかったんです。まだ「コントラクト」（出来高制の請負制）もなかったし。10ガロン集めた者も45センなら、3ガロンだけでも45センを、もらっていたんです。でも、ゴムの樹のタッピングはいいものですよ。仕事を熱心にやる、それだけです。樹液がどれだけたく

日本軍政下のマラヤのエステートの村民 (1)

問 : 全員が、マネージャーの仕事をしていたのですか？ タッパーではなく？

ハッサン: はい。大体みんな、マネージャーです。それから、1人はGM (ジェネラル・マネージャー) でした。

問 : 今のやり方と同じですね。みんな、GM やアシスタントですか？

ハッサン: そうです。

問 : 日本人は、みんなで何人位ですか？

ハッサン: 15人以内です。

問 : その妻や子どもも入れて？

ハッサン: そうです。みんなで合わせて15人といったところですね。

問 : エステートで、働いていたのは何人位ですか？

ハッサン: 働いていた日本人の男の人は、4, 5人だと思います。

〈エステートでの仕事〉

問 : あなたが、このエステートで最初に働き始めたのはいつですか？

ハッサン: 私が15歳の時です。生まれもここです。

問 : それじゃ、日本軍がここに来る前には、もう働き始めていたのですか？

ハッサン: もう働いてました。戦争前に、私はもうここで働いていました。私がここで働いたのは、戦争の1ヶ月前のことです。

スタッフ: 1940年のことだと思います。

問 : なぜ、ここで働こうと思ったのですか？

ハッサン: ここで働いている父と母がいましたから。

問 : 当時、他の仕事はありましたか？

ハッサン: ありませんでした。タッピングだけですよ。

問 : 両親の仕事は何でしたか？

も、当時、トクムラ・エステートがありました。今では（トクムラ・エステートの地域も）トゥロック・スンガットの所有ですけれど。

問 : (トクムラ・エステートの) 当時のマネージャーは誰か知っていますか?

ハッサン: 知りません。

問 : 知りませんか?

ハッサン: 日本人です。もう忘れました。

問 : 当時は、日本人は何人、いましたか?

ハッサン: トクムラ・エステートには、夫婦がいました。2人だけです。

問 : 彼らは何をして働いていたのですか?

ハッサン: ゴムを採っていました。

問 : 日本人なのに、ゴムのタッピングをしていたのですか?

ハッサン: 違います。彼はマネージャーです。でも、持っていた地域は全部ゴム林です。

問 : 名前は?

ハッサン: わかりません。もう忘れました。

問 : 他に日本人はいなかったのですか?

ハッサン: いません。日本人は2人だけです。

問 : トゥロック・スンガットには、日本人が何人いたのですか?

ハッサン: わかりません。思い出せません。

問 : 50人とか100人とか?

ハッサン: そんなにはいません。14, 5人ぐらいです。

問 : 全部、男性ですか?

ハッサン: 妻や子どもがいる人もいました。

問 : 家族を連れてきている人もいたのですか?

ハッサン: いました。

日本軍政下のマラヤのエステートの村民 (1)

問 : ご両親はどうでしたか? ご両親は、学校に行っていましたか?

ハッサン: 学校には行っていません。両親は、(インドネシアの) ボヤンの出身です。

問 : ご両親は、読み書きができましたか?

ハッサン: できませんでした。

〈当時のエステートについて〉

問 : 当時のエステートの名前は?

ハッサン: トゥロック・スングァです。今のように。エステートの名前は変わっていません。

問 : 当時は、ナンヨーやアサヒといったエステートもありましたか?

ハッサン: ありました。

問 : 当時は、キム・ロン・エステートもありましたか?

ハッサン: ありませんでした。ここはすべて、トゥロック・スングァが所有していました。

問 : 当時は、向こうのプングランからアサヒまでずっと、この地域全部を、トゥロック・スングァが持っていたんですね。

ハッサン: 当時は、アサヒです。トゥロック・スングァが所有していましたが、ナンヨーは違います。そこ以外は、全部、トゥロック・スングァが所有していました。

問 : 日本人のエステートは他には何が? たとえば、ナンガとか?

ハッサン: ここは、トゥロック・スングァでした。ナンヨーは別ですけど。でも、そこも日本人の所有です。

問 : 当時は、エステートの名前は変わっていたのですか?

ハッサン: いいえ。ナンヨーのように、現在まで変わっていません。で

問 : 何をして働いていましたか？

ハッサン: ゴムの樹液集め (タッパー) です。

問 : 当時は、どこに住んでいましたか？

ハッサン: 当時も、ここ (トゥロック・スンガッ) に住んでいました。

問 : エステートの中にですか？

ハッサン: そうです。でも、当時は、この場所というわけじゃないです。日本軍政期は、決まった場所でなく、森の中に住む場所がありましたから。

スタッフ: 当時は、ここのエステートはすべてゴム林でした。今は、働く人はみな、各人の働き場所に近い地域にいますけれど、当時は、働く場所から家まではとても遠かった。現在のようにはないですね。

問 : 家には、誰と住んでいましたか？

ハッサン: 当時は、両親と暮らしていました。

問 : 兄弟は？

ハッサン: 2人だけです。

問 : ご本人も入れて？

ハッサン: そうです。

問 : 兄弟、それとも姉妹？

ハッサン: 弟です。

問 : お父さんの仕事は？

ハッサン: ゴムのタッパーです。

問 : お母さんの仕事は？

ハッサン: ゴムのタッパーです。

問 : エステートで働きはじめる前は、(あなたは) 学校に行っていましたか？

ハッサン: 学校には行っていません。当時は、学校もありませんでした。

日本軍政下のマラヤのエステートの村民 (1)

タッパーとして働き始めた。両親ともトゥロック・スンガッ・エステートで労働者（ゴムのタッパー）として働いていた。彼は、55歳の時に、タッパーとしては引退し、その後、請負（Contract）に切り替え、現在、トゥロック・スンガッ・エステートの庭師として、アシスタント・マネージャーの家の庭の世話などを行っている。トゥロック・スンガッのブラディン・バル村（Kg.



Wak Baying bin Hassan

Belading Baru) に住んでいる（1995年8月7日、エステート内のアシスタント・マネージャー宅でインタビュー）。

〈本人と家族について〉

問⁸⁾ : お名前は?

ハッサン: ハッサン⁹⁾です。

問 : 現在のお歳は、いくつですか?

ハッサン: 65歳です。

問 : 何年生まれですか?

ハッサン: わかりません（1930年生まれと思われる）。

問 : 生まれは、どこですか?

ハッサン: 私の両親はインドネシア生まれで、（スマトラの）プラウ・ボヤン（Pulau Boyan）出身です。

問 : 日本軍政の時は、歳はいくつでしたか?

ハッサン: 日本軍政の時は、私は15歳でした。

問 : もう働いていましたか?

ハッサン: （日本軍が）ここに来る1ヶ月前に働き始めました。

開かれている²⁾。1910年代から1920年代にかけて、ジョホール川の河口からコタ・ティンギの一带は、「新日本村」と呼ばれるほど日本人ゴム園が続いていた³⁾。第2次大戦になると、シンガポール攻撃にも便利なジョホール川に面する地の利から、同エステートは日本軍の駐屯地として使われ、戦後に州政府に接收された。同エステートは、1951年に華人の実業家 Heah Joo Seang (連裕祥) によって買い取られた⁴⁾が、その後、資金繰りがうまくいかず、経営代理を行っていたバウステッド社が1977年に買収した。買収の際に経営権は移譲されたが、エステートで働く労働者はそのまま引き継がれ、現在に至っている。バウステッド社内では、同エステートは、Heah Joo Seang Rubber Estate 社として Guntong/Nanyo 地区を含めて登録されている⁵⁾。

今回のインタビューは、1995年8月および1996年8月に行なったもので、日本軍政を経験し、記憶しているトゥロック・スンガッ周辺の村民、計22名(マレー系15名、華人5名⁶⁾、オラン・アスリ2名)に対して行なった。その内、日本軍政期にトゥロック・スンガッ・エステートの労働者であった者は6名(マレー系5名、華人1名)である。インタビューの使用言語は、マレー系およびオラン・アスリのインタビュー対象者には、マレー語を用いた。今回の華人のインタビュー対象者の場合、華語のみならず、海南語、潮州語などもあり、いずれの場合も華人のエステート・スタッフもしくはインタビュー対象者の家族に通訳を頼んだ。

なお、実際のインタビューでは、インタビュー対象者も筆者も、気さくな言葉遣いをしている場合もあるが、日本語に訳す際には、読んで自然なように、「です」、「ます」で統一した⁷⁾。

《インタビュー1》

Wak Baying bin Hassan 氏。65歳。1930(?)年にトゥロック・スンガッ・エステートに生まれ、15歳の時から、同エステートでゴムの

日本軍政下のマラヤの エステートの村民(1)

— ジョホール州における終戦50年後の
インタビューより —¹⁾

吉村 真子

マレーシアは、1942年から45年にかけて、日本軍政を経験している。マレーシア人にとっての日本軍政期は、食料不足にさいなまれた時期として記憶されており、またとくに華人(中国系住民)にとっては、日本軍によるマレーシア各地の華人虐殺が歴史として伝えられている。

今回は、筆者が以前から調査を行なっているエステート(プランテーション)をケースに取り上げ、日本軍政期においてそのエステート周辺の村民がどのような経験をし、当時をどのように記憶しているか、について、日本の敗戦から50年を経た1995年およびその翌1996年にインタビューを行なった。

インタビューを行なった場所は、マレーシアのジョホール州コタ・ティンギにあるトゥロック・スンガッ・エステート(Telok Sengat Estate)とその周辺の村においてである。

トゥロック・スンガッ・エステートは、戦前から続いているエステート(100エーカー以上の大規模経営の農園を指す)である。現在は、マレーシアのエステート会社バウステッド社(Boustead Sdn. Bhd.)が所有しているが、戦前は日本人によって所有されていた。トゥロック・スンガッでは、Guntong(「群島」)、Nanyo(「南洋」)、Asahi(「旭」)など、日本語のエステート名が現在でもそのまま使われている。

トゥロック・スンガッ・エステートは、日本人によって1910年頃に